資料４

第４回震災復興検討会議議事（概要）

日時：平成 23 年 9 月 16 日(金)　午後 3 時半～5 時 40 分
場所：第三委員会室

報告事項（津波シミュレーションについて）
・ 七北田川及び名取川の河川堤防を 7.2mに上げれば、レベル２津波の七北田川北部への反射を抑えられることから、国や県に河川堤防を 7.2mにするようお願いしていく。

議事（中間案について）
・ 防災教育が重要。今回の教訓を生かした防災教育や、自助につながるような防災訓練の見直しも必要。
・ 壁新聞などアナログの大切さを再確認。
・ 水道、電気、ガスなどの強化が重要。
・ 10 のプロジェクトそれぞれの関係性を示す必要がある。
・ それぞれのプロジェクトにスケジュール感を示す必要がある。
・ 今回の震災をどう伝えていくのか。メモリアルプロジェクトには、大学も協力したい。
・ 宅地については、計画内容を着実に進めることが肝心。
・ 東部の地盤沈下について、イメージ図などで地盤沈下を明示してほしい。
・ 専門家の間でも二線堤の効果が課題となってきた。数百年に 1 回の津波にどこまでやるのか。二線堤により地域が分断され、東側の浸水深が深くなる。メリット・デメリットを検討してほしい。
・ 港地区について復興特区として企業誘致するというが、危ないところに産業が立地するのだろうか。「逃げる」ことを確保した上で、保険制度でカバーするしかない。
・ がれきは、県道の嵩上げ盛土に活用に固執することなく、移転先の盛土に使うなどしてもいい。
・ 横浜でも、仙台にチャンスがありとしている。仙台に人が集まる魅力づくりが大切。
・ 復興計画の総括で、死亡者の数など、データをきちんと記載すべき。
・ 東部の土地利用については、多くの人が亡くなった地域であり、十分な配慮が必要。
・ 東部土地利用に公開コンペなどを行うなど、情報の公開と透明性を確保する必要がある。そのことが、シンボルになる。
・ 基本理念については、復興は誰のためにやるのかを入れるべき。
・ プロジェクトにはロードマップを。５年目に何をするのか、最終目標の数値をつけてもらいたい。
・ 「仙台モデル」は大賛成。頑張ってほしい。

- 移転について考えは地域によって違う。市民の命と財産を守るのが行政の仕事だから、「地域住民の意向を踏まえる」ことを入れてほしい。
- 農業はあるが漁業に関する記載がない。少数であっても漁業従事者のことを書くべき。
- 次世代エネルギーの藻類について具体的表現が過ぎる。
- 年度ごとに評価・点検を行うことを書き加えてもらいたい。評価は市の自己評価をしてから、市民に評価してもらった方が良い。
- 復興の主体は市民であり、市民がどう関わっていくかを一緒に考えていくプロセスを大切にする必要がある。
- 女性の視点は弱者の視点ではない。女性は困難な人の身近にいて声を届けることができる。
- 「仙台モデル」に期待している。全国から注目されており、全国に発信していくことが重要。
- 計画は方向性を示すものと考えれば、津波シミュレーションを駆使して建築規制について勇気を持って提案することは大切。
- 移転先の市街地などがどのようになるのか詰める必要がある。復興住宅についてもまだ議論がない。
- エコモデルタウンのスマートという言葉は、電力の管理化がはじまりで、供給側が需給側をコントロールすることが原点であり、注意が必要。
- 実施計画では、復興計画と基本計画のつなぎに注意が必要
- 良いものを丁寧につくることが大切。コンペなどにより世界中の知恵が集約できる。
- ３・１１の震災の記憶を未来に残すことが必要。
- 「仙台モデル」の構築については、津波の歴史、浪分神社や石碑などの地域資源を大切にする視点に立ってほしい。また、副読本を整備する必要がある。
- 海岸での交流を進めるのであれば、車社会についても考えなければならない。乗り捨てられる場所や駐車場などにより車から降りて逃げることも必要。道路だけでは難しい。
- ５年後に仙台市民は何を身に付けているか。ライフスタイルが変えられているかなどのメッセージを込めることも必要ではないか。
- ３・１１の鎮魂のメッセージが弱い。
- 「〇〇力」と言う言葉が上滑りしている。
- 自助・共助を強化という表現があるが、まるで市民が自分たちの役割を果たしていないかのように聞こえ、失礼なのではないか。
- プロジェクト９の表現は是非直してほしい。文化や創造は「力」を入れるものではない。